2018年12月2日

日本部活動学会　会員各位

第２回大会実行委員会委員長　小野田正利（大阪大学）

日本部活動学会　第２回大会（大阪大会）のご案内

会員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のことと思います。

さて今年３月の学習院大学での第１回を受けて、次回の日本部活動学会の第２回大会は大阪大学・人間科学部（吹田キャンパス）を会場にして、２０１９年3月２４日（日）に開催いたします。ぜひ、まず日程の確保をお願いいたします。

大会に関するお問い合わせ（連絡先）
〒５６５―０８７１　大阪府吹田市山田丘１－２　大阪大学・人間科学研究科・小野田正利
ＴＥＬ（０６）６８７９－８１１２（小野田），８１１３（事務補佐：加藤都）
電話ではほとんど連絡がつきにくいので、下記のメールでの問い合わせが一番です。但し、１日100通以上のメールがきますので、紛れないために、**タイトル（件名）に必ず「部活動学会大会」とお書き下さい。**小野田のアドレス：onoda@hus.osaka-u.ac.jp
＊パソコンメールしかできませんので、携帯やスマホでメール受信を拒否されている方には、ご返信できません。

今回の第２回大会から**午前中に、会員による「自由研究発表」の場を設けることになりました**。ぜひご自身やグループでの研究発表をご準備いただき、積極的に発表の申込みをしていただければと思います。もちろんシンポジウムや情報交換会にも、足をお運びいただければと思っております。

【自由研究発表の趣旨】

他の学会での自由研究発表（ポスター発表という形式もあります）をご存じの方は何人かおられると思いますが、そうでない方も多数おられますので、ここで簡単に第２回大会から始めるこの制度の内容について説明します。

（１）会員個人（あるいは会員を含むグループ）が、自身の関心から研究を続けてこられたテーマについて、その成果を発表し、批評を受けながら研究交流をおこない、さらなる切磋琢磨をする場です。

（２）司会者の進行の下で、定められた時間内で発表をおこない、その後にその会場にいる参加者からの質疑や意見交換をおこなうことで、今後のご自身の研究内容あるいは方法をさらに深めていただく機会となるものです。

（３）もちろんテーマ設定はご自由ですが、学会名が「日本部活動学会」となっていますので、「部活動」に関係するものであることが必要です。

（４）まず事前に「発表申込み」をしていただいて、その後に「発表の要旨（概要）」をお出しいただき、当日には別に「発表資料（紙媒体）」を、適当に会場参加者分を印刷し持参していただき、**口頭発表**という形で行います。むろんパワーポイントなどを活用していただいてもかまいません。

（５）発表時間は、今回が最初ですので、多くの他の学会の例を参考にして、個人発表は１人３０分（発表２５分、質疑応答５分）、グループ発表は５０分（発表４０分、質疑応答１０分）とします。

（６）発表される方は、以下の「申込み（募集）」に基づいて申し込んで下さい。

手順：発表申込み（1 月 15 日）→発表要旨提出（2 月 28 日）→大会当日発表（3 月 24 日）

【自由研究発表の申込み（募集）】

下記の要領で「自由研究発表」の募集をします。発表は、本学会の会員としての資格を有する方に限定します（グループ発表の場合は、その研究の中心となった方＝発表責任者が会員であること）。ぜひご応募ください（＊なお発表申込み後の発表キャンセルは「大会プログラム」の決定後は避けてください。このため、キャンセルは２０１９年１月２７日（日）までに連絡を。）

発表をご希望の方は、２０１９年１月１５日（火）までに、下記の要領で電子メール（あるいは郵送）にて、お申し込みください。なお、発表の時間帯についての希望を承ることはできません。

〈発表時間〉　個人研究発表　発表２５分・質疑５分（計３０分）
　　共同（グループ）研究発表　発表４０分・質疑１０分（計５０分）

＊共同研究の場合でも、口頭発表者が１人の場合は「個人研究発表」としてください。
＊共同研究の場合、研究の中心となった方＝発表責任者が会員であることが必要です。

【メールでの受付の方法】

① 日本部活動学会のホームページ（ https://jaseca2017.jimdo.com/）に掲載の第２回大会の部分（バナー）をクリックし、次に「自由研究発表申込用紙」をダウンロードしてください。

②その申込用紙に必要事項を記入し、日本部活動学会事務局のメールアドレス（jaseca2017@gmail.com）（※お問い合わせ欄にもあります）に、用紙をファイル添付し、件名に「自由研究発表申込」と記入して送信ください。**締め切り日：２０１９年１月１５日（火）**

※申込締め切り後、１週間程度（２０１９年１月２２日頃が目安）で申込確認のメールを送信します。この時期まで待って、申込が受理されたとのメール返信がない場合は、すみやかに大会実行委員会（冒頭部分を参照）の小野田正利まで，その旨をメールでお知らせください。

③その後は「発表要旨集録」原稿作成のためのフォーマットを、同じく日本部活動学会のホームページからダウンロードして発表者各自で作成してください。

④作成した「発表要旨」原稿用紙を同じく、日本部活動学会事務局のメールアドレス（jaseca2017@gmail.com）にファイル添付し、件名に「発表要旨集録原稿」と記入して送信ください。**締め切り日：２０１９年2月２８日（木）**

それをもとにして『発表要旨集録』（大会当日に配布）を作成します（校正はありません）。

※届き次第、すみやかに「受け取りました」のメールを３月４日（月）までに送信します。
この時期まで待って、申込が受理されたとのメール返信がない場合は、すみやかに大会実行委員会（冒頭部分を参照）の小野田正利まで，その旨をメールでお知らせください。

【郵送による受付の方法】

電子メールを使用されない方の申込みは、郵送で受け付けます。下記の①②③④のすべての必要事項を、Ａ４判の任意の用紙に記入し、大会実行委員会宛に、2019年１月１５日（火）必着（消印有効）で郵送してください

※なおその後の「発表要旨集録原稿」も同じスケジュールになります。

①発表者の氏名と所属（共同研究の場合は、全員の氏名（所属）を記し、口頭発表者の氏名の前に〇を付して下さい。大学院生の場合は、「所属・院生」と記して下さい。）
②発表題目名（※発表当日になって、申込み時のものと大きく違うものにしないでください）
③発表時に使用を希望する機器（用意できない機器があった場合は連絡させていただきます）
④連絡先（共同研究の場合は発表責任者１名の連絡先）　住所と電話番号（あればＦＡＸも）

第２回大会スケジュール

１．期日　２０１９年3月２４日（日）
　　９：００～１７：４０（情報交換会は１8:00～２０：００）

２．会場　大阪大学・人間科学部（大阪大学の吹田キャンパス）
①「大阪空港」からモノレールで「阪大病院前」まで約 20 分（下車後７分）
②新幹線「新大阪」駅から、地下鉄で北上して（15 分）、「千里中央駅」でバスかモノレールに乗り換え（約 20 分）
③新幹線「京都駅」から、ＪＲで「茨木」まで（25 分）、そこから近鉄バスに乗り換え（約 20 分）
モノレールの場合は「阪大病院前」駅、バスの場合は「阪大本部前」バス停が最寄りです。
会場の人間科学部へのアクセスはＨＰ（https://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/access.html）をご覧ください。

３．会費　①大会参加費（『発表要旨収録』代を含む）
会員は１,000 円　学生会員は無料　非会員は 2,000 円（学生 1,000 円）
②情報交換会費（参加は任意です）正会員・臨時会員共通　4,000 円

４．大会日程【3月２４日（日）】大阪大学・人間科学部（案内を玄関に出します）
受付：９：００～人間科学部１階玄関
■自由研究発表：９：３０～１２：００（数会場）
昼食：１２：００～１３：２０
◆【理事会】１２：１０～１３：１０
■公開シンポジウム：１３：２０～１６：２０
休憩：１６：２０～１６：４０
■学会総会：１６：４０～１７：４０
■情報交換会：１８：００～２０：００

５．公開シンポジウム　テーマ「学校部活動と近隣トラブル」
＊「学校保護者関係研究会」（小野田が科研費・基盤研究(A)の代表者として組織している組織）が社会貢献として実施している第 12 回半公開学習会との共催企画となります。
登壇者：中間茂治（会員、藍野高等学校教諭(運動部系部活動顧問)）
林直哉（非会員、長野松本深志高校教諭、生徒会・放送部顧問）
柳原真由（非会員、慶應義塾大学１回生・「鼎談深志」の創始者）
橋本典久（非会員、騒音問題総合研究所代表、八戸工業大学名誉教授）
コーディネータ：小野田正利（会員、大阪大学大学院教授）
【企画の趣旨】
１．学校部活動問題を考えるにあたって、相当に深刻で現実的な問題として「学校周辺住民からの苦情・クレームによる部活動への影響」という問題がある。地域性や競技種目によっていくぶんの違いがあるが、部活顧問たちが時として、この問題に大きな悩みを抱えていることは明確な事実である。「部活動は迷惑だというクレームで活動時間を縮小」「音をめぐる苦情で、窓を閉めて活動していたら生徒が熱中症に」「住民が生徒とロゲンカを始めた」――この 20 年あまりの間に、都市部だけでなく全国各地で、学校と近隣住民との間に生じる摩擦が大きくなっている。
　中学校や高校での運動部活動の実施をめぐっては、音と声そして校外での活動に関する苦情が中心である。「野球部の朝っぱらからのかけ声」「テニスの打球音」「体育館から響く音」「公道を使った大勢のランニング」「大きな道具を持ち込んでの車両空間の独占」などに対する苦情は昔からあったが、いまでは明確に被害行為として教育委員会や学校に対策を講じるよう要求が出される時代に入った。穏便におさめようとして、多くの学校は「内向き」指向に入り、微に入り細にわたる生徒への注意喚起と部活動時間の制限や活動範囲の縮小へと進む。すると生徒たちは「学校周辺の住民からの苦情で自分たちの活動がどうして制約されなければならないのか」とイラダチを募らせ不満が高まっていく。
２．「子どものことだから大目に見る」という寛容性は一部では残っているが、他方で住民からは「我慢にも限界がある」と感じることも少なくない。環境基準や騒音防止条例では、工場から出る騒音も

学校からの騒音も同じ扱いである。「子どもの発達・学習権の保障」と「隣人住居の平穏という人格権の保障」を、どうやって両立させていくことが可能なのだろうか。「公共的施設だから」「昔からここにあった」という理由や説得では収まりがつかなくなったいま、紛争やトラブルを少しでも緩和しながら、双方が「折り合い」をつけていくためには何が必要か。学校をゴミ焼却場や精神病院などの、住民にとって望ましくないと考える公共施設＝「迷惑施設」あるいはＮＩＭＢＹ（ニンビー）（not in my backyard、私の裏庭には作らないで）にさせないために、どのような改善策を考案していくかが、必要かつ喫緊の課題となってきたことは明確である。

この場合に重要なポイントは、トラブル解決の主役は、学校の教職員ではなく当事者としての子ども（生徒）であること、学校も地域に住まう住民の一人として自覚できているかどうかである。別の言葉に置き換えれば「主体性」と「当事者性」ということになる。

３．具体的な行動を起こしはじめた高校生たちがいる。長野県立松本深志高校では、学校から出る音のトラブルを、生徒たちが近隣住民（町内会）との話し合いの中で解決しはじめ、実績を積み重ねている。2016 年秋に、一人の女子生徒が立ち上がり、周りの生徒に呼びかけて行動を起こし始め、直接に住民の人たちと話しながら妥協点をさぐる道を模索する。学校の教職員の了解をとりつけ、各町内会を訪問してアンケート調査をし、周辺の 140 軒の家を手分けし個別訪問して意見聴取を重ね続け、２回にわたって「高校から出る音」についての住民代表との意見交換会を開催にこぎつけた。この会合の場で、生徒たちが苦労し腐心し部活動をしている姿を、住民たちも「初めて知る」ことになった。印象的なのは、応援団が和太鼓をタオルとビニール袋で覆って消音に努めていることであった。「やっぱりノビノビと部活動をさせてあげなきゃいけない」という思いを持ち始め、他方で生徒たちも住民の目線に立って考えることの大事さに気づくことになる。

こうして 2017 年５月に、松本深志高校地域フォーラム「鼎談深志」が発足した。その設置要綱の冒頭は次のように謳う。《私たち松本深志高等学校、生徒、教職員、近隣五町会は、ともに協働し、松本深志高校を取り巻く地域コミュニティのよりよい関係を目指し、広範な対話と工夫を尽くして課題を解決するためにこの要綱を定める。》つまり、単に音の問題だけでなく、防災、災害準備を含め、学校と近隣住民に関わる課題の協議の場の創設である。これら一連の経緯をまとめた映像を同校の放送部が制作し、その作品「鼎談深志～私の新委員会創設物語」（８分間）は、ＮＨＫが主催する全国高校放送コンテストの第 64 回大会（２０１７年）の「テレビドキュメント部門」で優勝という快挙に輝いた。

４．今回のシンポジウムは「学校部活動と周辺住民とのトラブル」に焦点をあてて、その現状と紛争解決の道筋を考える場としたい。柳原真由氏は、この当事者であり、林直哉氏は生徒会顧問として、この変化に富んだ経緯を静かに見守り、生徒たちの主体性を支え続けてきた教師である。橋本典久氏は、音をめぐるトラブルの専門家として、数々の事案の考察を重ねてきている。会員の中間茂治氏は、屋外スポーツとして最も苦情の多い野球部や公式テニス部の顧問を長く務め、地域住民との関係改善に配慮をしてきた経験を持つ。コーディネータは、保護者対応トラブルと同時に、学校の抱える近隣トラブルを科研費研究として追究し、『迷惑施設としての学校―近隣トラブル解決の処方箋』（時事通信社、2017 年）の執筆者である小野田正利が務める。

６．その他

【大会参加のための宿泊等】<u>会員各自で、ご予約・手配をお願いします。特に春休みですので、お早めの予約を。</u>

＊「じゃらん」で探す場合は「新大阪・江坂・十三」あるいは地下鉄・御堂筋線近くの「大阪駅・梅田駅」、大阪モノレールの沿線やＪＲ茨木駅界隈を考えると「大阪北部（茨木・高槻・箕面・伊丹空港）」が手頃、阪急線とモノレールを使った形では「宝塚（兵庫県）」や「豊中（大阪府）」も、思い切って大阪モノレールを活用して「大阪東部（門真）」も穴場で値段も安いです。「大阪市内」は、逆に会場の大阪大学へのアクセスに時間がかかります。周辺を探した方が見つかりやすいしお得です。

【昼食】日曜日なので、かなり制限されますが、同じキャンパス内の会場から歩いて５分程度の「阪大病院」内に、コンビニ、食堂、スタバなどがあります［大会事務局では弁当の販売をしません］。

【運営】会員は大阪大学では１人だけであり、大阪府下の会員の協力をいただきますが、手が回らないことも多々あり、不慣れも重なりますので、ご迷惑やご不満も生じるかと思いますが、寛大な気持ちでご容赦をいただければと思います。